

活動報告

隣町を知ろう！ 「飯能の歴史散策」

2022—5—23

記 佐野喜代子

- ◇日時 5月19日(木) 集合 9時50分 飯能駅改札の外
解散 15時 飯能駅改札前
- ◇行程 飯能中心市街地歴史的建造物見学⇒観音寺⇒能仁寺⇒中央公園(各自昼食)⇒
市立博物館見学および講義⇒飯能河原⇒飯能駅
- ◇ガイド 駅から能仁寺まで 飯能市 生涯学習課 文化財担当 熊沢さん
博物館での講義(飯能戦争について) 博物館 尾崎館長
- ◇参加者 24名(男性15名 女性9名)

<はじめに>

久しぶりの晴天に恵まれ、予定時刻前に全員が集合しました。2年半ぶりの午後までの行事です。

飯能まち歩きガイドブックを作製した飯能市生涯学習課に電話したところ、文化財担当の熊沢さんという方が「当市に興味を持ってくださる方をご案内するのは当然」というような即答をいただき、説明付きの散策が実現しました。

博物館では以前の郷土館時代から何回かお世話になっている、館長に飯能戦争についてのレクチャーを受けることになりましたが、館内も、研修室も15名という制約があります。そこで2班に分かれるということでこれも便宜を図っていただきました。また、コロナ感染を勘案して中央公園内で各自持参したお弁当で会話を楽しみながらの昼食でした。

<散策の記録—市街地歴史的建造物>

○ 入間馬車鉄道停車場跡

現在の駅前通りと銀座通り交差点付近に明治32年(1899)飯能・入間馬車鉄道開業。飯能町と入間川町(現在の狭山市駅)を結ぶ。当時入間川町には川越と国分寺を結ぶ川越鉄道が開通していたため、飯能町の人たちは非常に便利になった。

- 洋風・看板建築と言われる旅館・歯科医院
看板建築・長屋形式になっている洋品店と理髪店(裏には木造の建物)



大正～昭和初期の旅館 新川長

○ 飯能織物協同組合

洋風建築ながら屋根にはしゃちほこが乗っている。洋風を意識して設計されているが基本は従来の和風建築でうまく和と洋が合体した建築。



大正 11 年築 旧飯能織物協同組合事務所棟



大正 10 年築 近代和風建築の双木家

○ 店蔵と袖蔵がセットで残る数少ない建物

蔵には武州一揆の際の刀傷が鮮明に残っているという。

○ 店蔵とそれに続く建物の配置がよくわかる建物群

店蔵、居住空間、中庭、勝手、便所、離れ（客人・宴会など）ここが蔵になっていることもある。店蔵は現在カフェ。

○ 絹甚

店蔵として飯能市が管理する建物。ここでは中に入り詳しい説明を受けました。店蔵と通りの間にある下屋（げや）という廂の下のような空間は個人の敷地でありながら、公の空間として、市（いち）の時には商人が品物を並べていたところです。市を中心とした街ならではの建物ということです。

○ 近代和風建築・大正初めの個人住宅

写真の双木家ほか。

<散策の記録一仏閣>

○ 観音寺

真言宗智山派（飯能市では珍しい）飯能戦争で焼け残った観音堂など見学、境内で説明

○ 能仁寺

境内で寺宝、庭園、中山勘解由3代の墓、黒田直邦公の墓、16羅漢の話
（寺の後ろの山が愛宕山から羅漢山になり明治16年に明治天皇が山頂から陸軍大演習をご覧になったことから天覧山になった。ちなみにこの時往復とも所沢で斎藤家にお泊りになられた）

<講義の記録>

昼食をはさみ博物館で2班に分かれ見学と飯能戦争について講義を受けました。

○飯能戦争

慶応4年5月23日未明、高麗郡笹井村（現狭山市）で始まり当日午後飯能の町において終結した振武軍を中心とする旧幕府方と新政府方とでなされた一連の戦闘行為のことです。日本の歴史上では慶応4年正月に始まり翌年5月の箱館戦争までの一連の内乱と言われる戊辰戦争の一コマです。

旧暦5月23日は新暦で7月半ばとなり梅雨の最中で物流が滞ることが多く、食糧調達に難儀をしたようです。所沢にも兵士たちが金品調達に現れた記録があります。太平洋戦争で町が消失するような空襲被害を受けていない飯能では近世以降で唯一の戦争体験です。

能仁寺、観音寺、広渡寺、智観寺は消失し、商家、民家など約半数が消失している。心応寺、玉宝寺、は駐屯していた兵が逃げ出したため焼失を免れた。この戦いに敗れた振武軍の渋沢平九郎については皆様ご存じのとおりです。



飯能戦争の戦場となった名刹 能仁寺

帰路は武州一揆の際一揆勢たちが集結した飯能河原、材木、織物で栄えたころ賑わっていた料亭が並ぶ通りを抜けて飯能駅まで歩き、全員無事に解散しました。

以上

担当： 佐野（Cグループ）、大野（Bグループ）、福本（Aグループ 応援・協力）